

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳基礎トレーニング(知識)			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	40 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	深井 裕美子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳者に必要な基本技能のうち、特に「知識」の取得に焦点をあてる。 具体的には、資料を収集・読解し、要約して発表するトレーニングを行う。
到達目標	通訳に必要な知識・常識を身につける、調べたことを伝達する
授業内容(予定)	
1	通訳に必要な知識
2	辞書の使い方
3	資料の図解化(1)
4	資料の図解化(2)
5	通訳場面を想定した知識収集と読解(1)
6	通訳場面を想定した知識収集と読解(2)
7	通訳場面を想定した知識収集と読解(3)
8	通訳場面を想定した知識収集と読解(4)
9	通訳場面を想定した知識収集と読解(5)
10	通訳場面を想定した知識収集と読解(6)
11	通訳場面を想定した知識収集と読解(7)
12	通訳場面を想定した知識収集と読解(8)
13	通訳場面を想定した知識収集と読解(9)
14	通訳場面を想定した知識収集と読解(10)
15	通訳場面を想定した知識収集と読解(11)
成績評価の方法	発表、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、プレゼンテーション(40%)、課題・レポート提出(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	株式会社ネスト代表取締役、日本映像翻訳アカデミー講師、(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳基礎トレーニング			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	40 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	川口 千佳 江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	知識

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳者に必要な基本技能のうち、特に「他者の話を聞く能力」の向上に焦点をあてる。具体的には、やや複雑な内容を理解し、その理解を可視化するトレーニングを行う。
到達目標	他者の話を聞く際に、知識をもとに論理的・構造的な理解ができるようになる
授業内容(予定)	
1	通訳トレーニング①
2	通訳トレーニング②
3	通訳トレーニング③
4	通訳トレーニング④
5	通訳トレーニング⑤
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	発表、レポート、再発表
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	日本語表現技術			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	20 時間	単位数	1 単位
担当教員	浅利 真紀子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本語表現技術を向上させるためのさまざまなトレーニングを行うとともに、自主練習のための方法を紹介する。
到達目標	日本語表現技術について自主練習ができるようになる
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	基礎①呼吸／姿勢
3	基礎②口の形／口の運動
4	基礎③表現技術
5	基礎④発声・滑舌
6	応用①
7	応用②
8	応用③
9	応用④
10	応用⑤
11	応用⑥
12	応用⑦
13	応用⑧
14	応用⑨
15	まとめ
成績評価の方法	授業態度と実技
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	授業内容に合わせ適宜配布
教員紹介	フリーアナウンサー(ボイス・コーポレーション)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳 I			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	宮澤 典子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本手話から日本語への翻訳の技術を習得する。 日本手話と日本語の言語構造の違いが大きい部分を特に取り上げ、構造の違いにもとづく翻訳の基本方針と具体的な技術について指導する。 課題動画をもとに学生各自が翻訳したものをクラス全体に提示しながらコメントする形で進める。 日本語が文脈依存型であり、文脈によって翻訳内容が大きく変わること留意する。
到達目標	日本手話から日本語への翻訳技術の基本を身につける
授業内容(予定)	
1	使役構文①:動詞連続構文と使役構文の関係
2	使役構文②:Aわかる／かまわないB構文—A部の文型のバリエーション
3	使役構文③:Aわかる／かまわないB構文—A部に働きかけがないタイプ
4	使役構文④:Aわかる／かまわないB構文—受身の問題等
5	発見構文①:時間の短さの含意
6	発見構文②:変化に気づくタイミングの処理
7	発見構文③:時間的順序の制約に関する翻訳技術
8	譲歩構文①:AよいB構文
9	譲歩構文②:AわかるB構文
10	譲歩構文③:A思うB構文
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業態度、翻訳解答、リアクションペーパー
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、課題提出(30%)、リアクションペーパー提出と内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元専任教官(手話通訳士)、一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	1 手話におけるさまざまな構文 授業において構文の意味を理解し、例文を発表する。 2 日本語から手話への翻訳 日本語の文章を読んで手話に翻訳する。事前課題として動画を提出し、授業でモデル動画との比較・分析について発表する。
到達目標	手話におけるさまざまな構文を習得する。 日本語から手話への翻訳ができるようになる。
授業内容(予定)	
1	(接続詞的用法)A-B構文 よい
2	(接続詞的用法)A-B構文 neg
3	(接続詞的用法)A-B構文 わかる
4	(接続詞的用法)A-B構文 OK
5	(接続詞的用法)A-B構文 悪い
6	(接続詞的用法)A-B構文 かまわない
7	(接続詞的用法)A-B構文 NM(--)
8	使役構文 命令(指示)一わかる
9	使役構文 依頼一かまわない
10	発見構文(視覚)
11	発見構文(聴覚)
12	発見構文(臭覚)
13	発見構文(触覚)
14	発見構文(味覚)
15	ミニ講座「翻訳とは？」
16	翻訳 人間のおもしろいところ
17	翻訳 アザラシとアシカの違い
18	翻訳 世界初の切手
19	翻訳 移動図書館
20	翻訳 ゴキブリの世界
成績評価の方法	授業態度と実技、事前課題
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題提出・実技(40%)、リアクションペーパー(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	短文を読んでNMを意識しながら手話に翻訳する。事前課題として動画を提出し、授業でモデル動画との比較・分析を行い、理解を深める。
到達目標	翻訳を通して手話の文法を身につける。
授業内容(予定)	
1	接続詞【しかし】
2	接続詞【そして】
3	接続詞【すると】
4	接続詞【それとも】
5	接続詞【それに】
6	【～つつある】
7	【～としたら】
8	【～かける】
9	【～ようとする】
10	【～そうに見える】
11	【～に違いない】
12	【～わけではない】
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業態度と実技、事前課題
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、課題提出・実技(30%)、リアクションペーパー提出・内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元主任教官、NHK手話ニュースキャスター(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	下城 史江	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	説明力・説得力を身につけるのが目標 ・どんな病気？(説明力) ・受けた方がよい治療法について(説得力) 相手は、日本手話が母語話者で、日本語に苦手意識をもつ50～60代ろう者を想定 事前課題あり:1人3分以内にまとめる。(ビデオ収録)
到達目標	医療分野の内容を手話で説明できる
授業内容(予定)	
1	導入:自身や家族、友人、著名人の怪我、病気、治療法等について話し合う
2	くも膜下出血
3	ナルコレプシー
4	パーキンソン病
5	緑内障→メニエール病
6	腎臓病→狂犬病
7	骨粗鬆症
8	筋萎縮性側索硬化症(ALS)
9	応用(復習)
10	応用(復習)
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	事前課題と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、課題提出・実技(60%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	NPO法人手話教師センター登録手話教師(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	120 時間	単位数	8 単位 ●
担当教員	下城 史江	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	A 課題文を日本手話に翻訳する。ビデオに収録し、授業当日までにクラスルームにアップする。チェックを受ける。内容に関連した語彙を身につける。 B 再チャレンジ。授業当日までにクラスルームにアップし、講評を受ける。
到達目標	介護に関する手話語彙やCL表現を増やす。日本語から手話への翻訳能力を高める。
授業内容(予定)	
1	A 耳鳴り(症状)
2	A アルコール依存症(症状)
3	A 緑内障(症状)
4	A 動脈硬化(治療)
5	A メニエール病(症状)
6	A おたふく風邪(症状)
7	A 外反母趾(症状)
8	A 麻疹(症状)
9	A ピロリ菌感染症の原因
10	A 破傷風の概要
11	B 「腹痛の患者さんの検査結果について」(初聞き通訳)
12	B 「腹痛の患者さんの検査結果について」(復習)
13	B 「血圧の薬について」(初聞き通訳)
14	B 「血圧の薬について」(復習)
15	B 「食生活の指導について」(初聞き通訳)
16	B 「食生活の指導について」(復習)
17	B 「ペースメーカーを使用する人へ」(初聞き通訳)
18	B 「ペースメーカーを使用する人へ」(復習)
19	B 「入院にあたってのご案内」(初聞き通訳)
20	B 「入院にあたってのご案内」(復習)
成績評価の方法	事前課題提出と実技
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題提出(40%)・実技(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	NPO法人手話教師センター登録手話教師(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	翻訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	120 時間	単位数	8 単位 ●
担当教員	海野 和子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	説明的談話トレーニング -相手にわかるように手話で説明する力を身につける。 -CL構文表出のトレーニング。 クラスルームに課題(手話で説明したもの、1人 1分～2分)を提出 授業当日、フィードバックを行なう
到達目標	相手にわかるように手話で説明する力を身につける
授業内容(予定)	
1	説明的談話のトレーニング「トランプ ババ抜き遊び方」
2	説明的談話のトレーニング「服にくっついてしまったチューインガムの取り方」
3	説明的談話のトレーニング「火事になったときの避難方法」
4	説明的談話のトレーニング「美味しいカフェオレの作り方」
5	説明的談話のトレーニング「過呼吸(過換気症候群)の正しい対処法」
6	説明的談話のトレーニング「ぎっくり腰の予防方法」
7	説明的談話のトレーニング「毒蛇にかまれたときの対処法」
8	説明的談話のトレーニング「お好み焼き 大阪と広島 違いは？」
9	説明的談話のトレーニング「バリウム検査の受け方」
10	説明的談話のトレーニング「色覚異常(色弱・色盲)の人の見え方は？」
11	説明的談話のトレーニング「洗濯機から異臭がしたときの対処方法」
12	説明的談話のトレーニング「マスククリアのやり方(ダイビング)」
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業態度と実技
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	NPO法人手話教師センター登録手話教師(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅰ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	40 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	市田 泰弘 川口 千佳	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本手話から日本語への「読み取り通訳」の技術を習得する。 限られた話者のよく似た構造の談話を継続的に取り上げることによって、学生の課題を浮き彫りにし、その改善を図る。 動画を再生しながら通訳した内容を音声でアフターレコーディングし、その内容をもとにクラスで問題点を指摘し合う。 事後レポートでは、通訳内容を文字起こしし、問題点・改善点を整理した上で、「理想の通訳」を作成する。
到達目標	手話から日本語への通訳能力の基礎を身につける
授業内容(予定)	
1	「いたずらシリーズ①」(初見)
2	「いたずらシリーズ②」(初見)
3	「いたずらシリーズ③」(初見)
4	「いたずらシリーズ④」(初見)
5	「いたずらシリーズ⑤」(初見)
6	「いたずらシリーズ⑥」(初見)
7	「いたずらシリーズ⑦」(初見)
8	「いたずらシリーズ⑧」(初見)
9	「いたずらシリーズ⑨」(初見)
10	「いたずらシリーズ⑩」(初見)
11	「いたずらシリーズ⑪」(初見)
12	「いたずらシリーズ⑫」(初見)
13	「いたずらシリーズ⑬」(初見)
14	「いたずらシリーズ」まとめ
15	「私の生き立ち①」(初見)
16	「私の生き立ち②」(初見)
17	「私の生き立ち③」(初見)
18	「私の生き立ち④」(初見)
19	「私の生き立ち⑤」(初見)
20	まとめ
成績評価の方法	授業への参加態度、実技、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(25%)、レポート(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元主任教官(手話通訳士) 手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳 I			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	40 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)を行う。ろう者(1名)の手話の談話(動画)を見て、手話を見落とさず、談話の内容を正しく理解し、手話と日本語の言語構造の違いや、コンテキスト・レジスターなどを認識し、通訳するための基礎力を養う。グループでのディスカッションの時間も大切にする。
到達目標	手話から日本語への通訳能力の基礎を身につける。
授業内容(予定)	
1	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
2	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
3	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
4	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
5	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
6	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
7	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
8	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
9	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
10	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
11	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
12	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
13	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
14	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
15	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)
成績評価の方法	実技(構造訳・日本語訳の提出)と授業参加度(リアクションペーパー)を総合する
成績評価基準の内容	実技・課題提出(50%)、授業への参加態度(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳 I			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	40 時間	単位数	2 単位
担当教員	宮澤 典子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本手話から日本語への翻訳通訳スキルを習得する
到達目標	日本手話と日本語の文法や談話形式の違いを理解し、適切な翻訳通訳ができる
授業内容(予定)	
1	日本手話から書記日本語への翻訳
2	日本手話から書記日本語への翻訳
3	日本手話から書記日本語への翻訳
4	日本手話から書記日本語への翻訳
5	日本手話から書記日本語への翻訳
6	日本手話から書記日本語への翻訳
7	日本手話から日本語への逐次通訳
8	日本手話から日本語への逐次通訳
9	日本手話から日本語への逐次通訳
10	日本手話から日本語への逐次通訳
11	日本手話から日本語への逐次通訳
12	日本手話から日本語への逐次通訳
13	日本手話から日本語への逐次通訳
14	日本手話から日本語への逐次通訳
15	日本手話から日本語への同時通訳
16	日本手話から日本語への同時通訳
17	日本手話から日本語への同時通訳
18	日本手話から日本語への同時通訳
19	日本手話から日本語への同時通訳
20	日本手話から日本語への同時通訳
21	日本手話から日本語への同時通訳
22	日本手話から日本語への同時通訳
23	テスト
成績評価の方法	授業態度、翻訳・通訳解答、テスト
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、課題提出(40%)、テスト(20%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元専任教官(手話通訳士)、一般社団法人全国手話通訳問題研究会会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅰ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	100 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	三好 祐子 川口 千佳	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本手話から日本語への「読み取り通訳」の技術を習得する。 限られた話者のよく似た構造の談話を継続的に取り上げることによって、学生の課題を浮き彫りにし、その改善を図る。 動画を再生しながら通訳した内容を音声でアフターレコーディングし、その内容をもとにクラスで問題点を指摘し合う。事後レポートでは、通訳内容を文字起こしし、問題点・改善点を整理した上で、「理想の通訳」を作成する。
到達目標	手話通訳士試験合格レベルの通訳能力を身につける
授業内容(予定)	
1	「私の生い立ち①」
2	「私の生い立ち②」
3	「私の生い立ち③」
4	「私の生い立ち④」
5	「私の生い立ち⑤」
6	「私の生い立ち⑥」
7	「私の生い立ち⑦」
8	「私の生い立ち⑧」
9	「私の生い立ち⑨」
10	「私の生い立ち⑩」
11	「私の生い立ち⑪」
12	「私の生い立ち⑫」
13	「私の生い立ち⑬」
14	「私の生い立ち⑭」
15	「私の生い立ち⑮」
16	「私の生い立ち⑯」
17	「私の生い立ち⑰」
18	「私の生い立ち⑱」
19	「私の生い立ち⑲」
20	「私の生い立ち⑳」
成績評価の方法	授業への参加態度、実技、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(25%)、レポート(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	(手話通訳士) 手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳 I			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	100 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話から日本語への翻訳(構造訳・日本語訳)・通訳(逐次通訳・同時通訳)を行う。様々な通訳場面(ろう者と聴者の対話)を想定し、手話の談話(動画)を見て、手話を見落とさず、談話の内容を正しく理解し、手話と日本語の言語構造の違いや、コンテキスト・レジスターなどを認識し、通訳するための基礎力を養う。グループでのディスカッションの時間も大切にする。
到達目標	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)における通訳実践力と手話通訳者全国統一試験(実技試験)合格レベルの通訳能力を身につける
授業内容(予定)	
1	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
2	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
3	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
4	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
5	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
6	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
7	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
8	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
9	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
10	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
11	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
12	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
13	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
14	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
15	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
16	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
17	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
18	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
19	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
20	通訳場面(相談・医療・労働・文化活動等)の映像の通訳とグループディスカッション・評価
成績評価の方法	実技(逐次通訳・同時通訳)と授業参加度(リアクションペーパー)を総合する
成績評価基準の内容	実技(50%)、授業への参加態度(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳 I			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	100 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	宮澤 典子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話から日本語への翻訳通訳スキルを習得する
到達目標	日本手話と日本語の文法や談話形式の違いを理解し、適切な翻訳通訳ができる
授業内容(予定)	
1	日本手話から日本語への同時通訳
2	訳出に対する分析と評価
3	日本手話から日本語への同時通訳
4	訳出に対する分析と評価
5	日本手話から日本語への同時通訳
6	訳出に対する分析と評価
7	日本手話から日本語への同時通訳
8	訳出に対する分析と評価
9	日本手話から日本語への同時通訳
10	訳出に対する分析と評価
11	日本手話から日本語への同時通訳
12	訳出に対する分析と評価
13	日本手話から日本語への同時通訳
14	訳出に対する分析と評価
15	日本手話から日本語への同時通訳
16	訳出に対する分析と評価
17	日本手話から日本語への同時通訳
18	訳出に対する分析と評価
19	日本手話から日本語への同時通訳
20	訳出に対する分析と評価
成績評価の方法	授業態度、翻訳解答、リアクションペーパー
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、実技(30%)、リアクションペーパー提出と内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元専任教官(手話通訳士)、聴者、一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳 I			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	100 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	性全 幸	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話から書記日本語への要約と翻訳 手話動画課題を用いた実技指導
到達目標	手話通訳士試験合格レベルの翻訳技術を習得する
授業内容(予定)	
1	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ②-1
2	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ②-2
3	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ②-3 (宿題)
4	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ③-1
5	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ③-5
6	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ②-4 (宿題)
7	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ③-6
8	手話通訳を目指す人たちの 読み取り学習用ビデオ ③-7
9	平成30年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
10	令和元年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
11	令和2年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
12	令和3年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
13	令和4年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
14	令和5年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
15	令和6年度 手話通訳者統一試験実技問題(過去問題)
成績評価の方法	授業態度と実技
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳士

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本語から手話への翻訳力を高める ① クラスルームで翻訳課題を出題 ② 期限までに翻訳した手話動画をクラスルームへ提出 ③ モデル翻訳例と自分の翻訳を比較・分析(語彙の選択、文法の言語面、翻訳面) ④ 授業で分析内容を発表し、フィードバックを受ける
到達目標	手話通訳士に合格するレベルの手話翻訳技術を習得する
授業内容(予定)	
1	日本語から手話への翻訳 1
2	日本語から手話への翻訳 2
3	日本語から手話への翻訳 3
4	日本語から手話への翻訳 4
5	日本語から手話への翻訳 5
6	日本語から手話への翻訳 6
7	日本語から手話への翻訳 7
8	日本語から手話への翻訳 8
9	日本語から手話への翻訳 9
10	日本語から手話への翻訳 10
11	日本語から手話への翻訳 11
12	日本語から手話への翻訳 12
13	日本語から手話への翻訳 13
14	日本語から手話への翻訳 14
15	日本語から手話への翻訳 15
16	日本語から手話への翻訳 16
17	日本語から手話への翻訳 17
18	日本語から手話への翻訳 18
19	日本語から手話への翻訳 19
20	日本語から手話への翻訳 20
21	日本語から手話への翻訳 21
22	日本語から手話への翻訳 22
23	日本語から手話への翻訳 23
24	日本語から手話への翻訳 24
25	日本語から手話への翻訳 25
26	日本語から手話への翻訳 26
27	日本語から手話への翻訳 27
28	日本語から手話への翻訳 28
29	日本語から手話への翻訳 29
30	日本語から手話への翻訳 30
31	日本語から手話への翻訳 31
32	日本語から手話への翻訳 32
33	日本語から手話への翻訳 33
34	日本語から手話への翻訳 34
35	日本語から手話への翻訳 35
36	日本語から手話への翻訳 36
37	日本語から手話への翻訳 37
38	日本語から手話への翻訳 38
39	日本語から手話への翻訳 39
40	日本語から手話への翻訳 40
成績評価の方法	課題提出、翻訳の自己分析力
成績評価基準の内容	課題提出(25%)、翻訳の自己分析力(25%)、実技(25%)、リアクションペーパー(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教員(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	日本語から手話への翻訳力を高める ① クラスルームで翻訳課題を出題 ② 期限までに翻訳した手話動画をクラスルームへ提出 ③ モデル翻訳例と自分の翻訳を比較・分析(語彙の選択、文法の言語面、翻訳面) ④ 授業で分析内容を発表し、フィードバックを受ける
到達目標	手話通訳士に合格するレベルの手話翻訳技術を習得する
授業内容(予定)	
1	日本語から手話への翻訳 1
2	日本語から手話への翻訳 2
3	日本語から手話への翻訳 3
4	日本語から手話への翻訳 4
5	日本語から手話への翻訳 5
6	日本語から手話への翻訳 6
7	日本語から手話への翻訳 7
8	日本語から手話への翻訳 8
9	日本語から手話への翻訳 9
10	日本語から手話への翻訳 10
11	日本語から手話への翻訳 11
12	日本語から手話への翻訳 12
13	日本語から手話への翻訳 13
14	日本語から手話への翻訳 14
15	日本語から手話への翻訳 15
16	日本語から手話への翻訳 16
17	日本語から手話への翻訳 17
18	日本語から手話への翻訳 18
19	日本語から手話への翻訳 19
20	日本語から手話への翻訳 20
21	日本語から手話への翻訳 21
成績評価の方法	課題提出、翻訳の自己分析力
成績評価基準の内容	課題提出(25%)、翻訳の自己分析力(25%)、実技(25%)、リアクションペーパー提出・内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元主任教官、NHK手話ニュースキャスター(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ(3グループ)			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	1000字の書記日本語を手話翻訳できる力を身につけることを目標とする。
到達目標	手話通訳士試験合格レベルの翻訳能力を身につける
授業内容(予定)	
1	時事用語コラムの翻訳① 例)【超高齢社会】
2	時事用語コラムの翻訳② 例)【電動車】
3	時事用語コラムの翻訳③ 例)【夫婦別姓】
4	時事用語コラムの翻訳④ 例)【オリンピック/パラリンピック】
5	時事用語コラムの翻訳⑤ 例)【生成AIと著作権】
6	時事用語コラムの翻訳⑥ 例)【最低賃金/賃上げ】
7	時事用語コラムの翻訳⑦ 例)【LGBTQ】
8	時事用語コラムの翻訳⑧ 例)【スポーツ賭博】
9	時事用語コラムの翻訳⑨ 例)【働き方改革】
10	時事用語コラムの翻訳⑩ 例)【ネット侮辱罪】
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	実技
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	参考:現代用語の基礎知識 学習版2024-2025 現代用語の基礎知識 学習版2025-2026
教員紹介	手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	ろう者に伝わる卒研プレゼンの方法を学び、フィードバックを受ける
到達目標	卒研でプレゼンができる
授業内容(予定)	
1	卒研プレゼン①
2	卒研プレゼン②
3	卒研プレゼン③
4	卒研プレゼン④
5	卒研プレゼン⑤
6	卒研プレゼン⑥
7	卒研プレゼン⑦
8	卒研プレゼン⑧
9	卒研プレゼン⑨
10	卒研プレゼン⑩
11	卒研プレゼン⑪
12	卒研プレゼン⑫
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、プレゼン(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	福光 あずさ	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	DVD「手話通訳レッスン」初心者コース7(災害編)利用。2回で1セット。1回目は初聞きで通訳した動画を提出。2回目は復習(練習)をした上で再チャレンジ。
到達目標	手話通訳士試験合格レベルの通訳能力を身につける
授業内容(予定)	
1	「住宅用火災警報器」初聞き
2	「住宅用火災警報器」再チャレンジ
3	「地震が起きたときには」初聞き
4	「地震が起きたときには」再チャレンジ
5	「どんな津波だったのか」初聞き
6	「どんな津波だったのか」再チャレンジ
7	「避難所生活できず」初聞き
8	「避難所生活できず」再チャレンジ
9	「ボランティア」初聞き
10	「ボランティア」再チャレンジ
11	「計画的避難始まる」初聞き
12	「計画的避難始まる」再チャレンジ
13	「放射線とは何？」初聞き
14	「放射線とは何？」再チャレンジ
15	「遅すぎる説明」初聞き
16	「遅すぎる説明」再チャレンジ
17	「手話通訳者等の派遣」
18	「手話通訳者等の派遣」再チャレンジ
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題提出・内容(40%)実技(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	NPO法人手話教師センター登録手話教師、日本社会事業大学非常勤講師(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	数見 陽子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	①書記日本語を日本手話に翻訳する ②聴文化(笑い)をどう翻訳するか →手話に翻訳し、課題を前もって提出(動画) オンライン授業でコメントをもらう
到達目標	笑いをテーマにした内容を手話に翻訳できる
授業内容(予定)	
1	「ナポリタンさん、あなたのおかげでつづりを覚えられました」
2	「”あうんの呼吸”って臭いものなんですね」
3	「私のオッパイをこんなにしたのは…」
4	「長いオッパイ…」
5	「パスポートの写真も…」
6	「使用後も計画的に…」
7	「チ〇を揉む！」
8	「赤ん坊は見ていた」
9	「言い間違い」
10	「カツラが…」
11	—
12	—
13	—
14	—
15	—
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	俳優、NPO法人手話教師センター登録手話教師、慶應義塾大学非常勤講師(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	小野寺 善子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話通訳士試験・統一試験対策 A DVD「手話通訳レッスン」初心者コース9(相談編) B DVD「手話通訳レッスン」初心者コース4(気になる話題) 1. 1回目(教室) 初めて聞く内容を通訳する(初聞き通訳)。 その場でフィードバックを受ける。
到達目標	手話通訳士試験学科試験の合格
授業内容(予定)	
1	B DVD「ダイエットを成功させるための基本的心構え」 イヤホンを使って初聞き(全員)
2	B DVD「ダイエットを成功させるための基本的心構え」 再チャレンジ
3	A DVD「『断捨離』する」 イヤホンを使って初聞き(全員)
4	A DVD「『断捨離』する」 再チャレンジ
5	B DVD「エコライフ」 イヤホンを使って初聞き(全員)
6	B DVD「エコライフ」 再チャレンジ
7	A DVD「子どものインターネット利用」 イヤホンを使って初聞き(全員)
8	A DVD「子どものインターネット利用」 再チャレンジ
9	B DVD「新しいタイプの栄養失調」 イヤホンを使って初聞き(全員)
10	B DVD「新しいタイプの栄養失調」 再チャレンジ
11	A DVD「介護の相談」 イヤホンを使って初聞き(全員)
12	A DVD「介護の相談」 再チャレンジ
13	B DVD「老老介護」 イヤホンを使って初聞き(全員)
14	B DVD「老老介護」 再チャレンジ
15	A DVD「年金の相談」 イヤホンを使って初聞き(全員)
16	A DVD「年金の相談」 再チャレンジ
17	B DVD「お見舞いの品を考える」 イヤホンを使って初聞き(全員)
18	B DVD「お見舞いの品を考える」 再チャレンジ
19	A DVD「いじめの相談」 イヤホンを使って初聞き(全員)
20	A DVD「いじめの相談」 再チャレンジ
21	B DVD「インターネットをするときはウィルスに注意」 イヤホンを使って初聞き(全員)
22	B DVD「インターネットをするときはウィルスに注意」 再チャレンジ
23	A DVD「近隣のトラブル」 イヤホンを使って初聞き(全員)
24	A DVD「近隣のトラブル」 再チャレンジ
25	まとめ
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題提出【事前収録と再収録】(40%)、実技の再検証と習得(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	NPO法人手話教師センター登録手話教師、NHK手話ニュースキャスター(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅱ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	180 時間	単位数	12 単位 ●
担当教員	澤田 利江	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳基礎トレーニングの一環として実施する。 1回目: 課題文を日本語に要約し、その要約を手話に翻訳する。 ※日本語に要約する際、生成AIの使用は禁止。 2回目: 同じ課題文を日本手話に翻訳または通訳する。 課題動画はGoogleフォームを使用して提出する。(YouTube限定公開)
到達目標	手話通訳士試験合格レベルの手話通訳能力を習得する
授業内容(予定)	
1	課題1(要約)朝起きられない息子の将来が不安な母
2	課題2(翻訳・通訳)朝起きられない息子の将来が不安な母
3	課題3(要約)チョコを見ると意地汚くなる
4	課題4(翻訳・通訳)チョコを見ると意地汚くなる
5	課題5(要約)友人の長電話に困っています
6	課題6(翻訳・通訳)友人の長電話に困っています
7	課題7(要約)老犬を施設に預けたいが家族が反対
8	課題8(翻訳・通訳)老犬を施設に預けたいが家族が反対
9	課題9(要約)「推し活」やめてつらい
10	課題10(翻訳・通訳)「推し活」やめてつらい
11	課題11(要約)妻から「くさい」と言われる
12	課題12(翻訳・通訳)妻から「くさい」と言われる
13	課題13(要約)DV夫だが母は「パパ」とお気に入り
14	課題14(翻訳・通訳)DV夫だが母は「パパ」とお気に入り
15	課題15(要約)他界した夫の浮気を暴露してきた友人
16	課題16(翻訳・通訳)他界した夫の浮気を暴露してきた友人
17	課題17(要約)信仰熱心な母、父の遺産はひとり占め
18	課題18(要約・通訳)信仰熱心な母、父の遺産はひとり占め
19	未定
20	未定
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	俳優、NPO法人手話教師センター登録手話教師、NPOデフNet.かごしま代表(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	宮澤 典子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	さまざまな領域・場面における模擬通訳をととして通訳実践力を習得する。 模擬通訳後のフィードバックをととして通訳実践力を習得する。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳に対応できる
授業内容(予定)	
1	講演会の通訳(通訳の流れを習得する)
2	講演会の通訳(通訳の流れを習得する)
3	講演会の通訳(通訳の流れを習得する)
4	1～3回模擬通訳のフィードバック
5	相談・受診等の通訳(通訳の流れを習得する)
6	相談・受診等の通訳(通訳の流れを習得する)
7	相談・受診等の通訳(通訳の流れを習得する)
8	5～7回模擬通訳のフィードバック
9	講義・グループワークの通訳(通訳の目的と行為を習得する)
10	講義・グループワークの通訳(通訳の目的と行為を習得する)
11	講義・グループワークの通訳(通訳中の調整スキルを高める)
12	講義・グループワークの通訳(通訳中の調整スキルを高める)
13	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
14	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
15	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
16	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
17	講演会の通訳(通訳中の調整スキルを発揮する、翻訳力を発揮する)
18	講演会の通訳(通訳中の調整スキルを発揮する、翻訳力を発揮する)
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、実技(30%)、リアクションペーパー提出と内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元専任教官(手話通訳士)、一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	宮澤 典子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳は言語と文化・生活様式が異なる人々間のコミュニケーションを仲介する行為であり、実際の通訳場面では両者の意見や立場を知り得る唯一の人として通訳者は重要な役割を担う。さまざまな領域・場面における模擬通訳をとおして手話通訳者の役割、通訳実践力を習得する。模擬通訳後のグループ討議・フィードバックをとおして通訳実践力を習得する。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳ができるようになるために、通訳場面を観察し、通訳行為に関する評価や課題を発見しができるようになる。
授業内容(予定)	
1	講義・グループワークの通訳(通訳の目的と行為を習得する)
2	講義・グループワークの通訳(通訳の目的と行為を習得する)
3	講義・グループワークの通訳(通訳中の調整スキルを高める)
4	講義・グループワークの通訳(通訳中の調整スキルを高める)
5	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
6	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
7	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
8	相談・受診等の通訳(通訳中の調整スキルを高める、翻訳力を高める)
9	講演会の通訳(通訳中の調整スキルを発揮する、翻訳力を発揮する)
10	講演会の通訳(通訳中の調整スキルを発揮する、翻訳力を発揮する)
11	—
12	—
13	—
14	—
15	—
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、実技(30%)、リアクションペーパー提出と内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元専任教官(手話通訳士)、一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	模擬通訳の実践を通じて、実践的な通訳技術・対応力・態度を養うことを目的とする。
到達目標	・基本的な通訳技術(正確性、表現力、態度)を理解し、模擬通訳に応用できる。 ・多様なコミュニティ場面に対応できる通訳表現力を高める。 ・通訳場面に応じた適切な立ち振る舞いや配慮を身につける。 ・フィードバックを通して自己評価・他者評価を行い、学びを深める。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション・場面通訳1 模擬通訳の目的・進め方の確認／通訳倫理や基本姿勢(服装、待ち合わせ、持ち物等)
2	役所での手続き① 住民票の取得・転入届など簡単な手続きの模擬通訳
3	役所での手続き② 福祉サービスに関する相談や申請などの模擬通訳
4	病院での通訳① 初診の受付、問診、症状の説明の模擬通訳
5	病院での通訳② 診察のやりとり、薬の説明、診断結果の模擬通訳
6	店舗・サービス利用 スーパー・コンビニ・美容院など日常的な買い物やサービス利用の通訳
7	警察・トラブル対応 道案内・遺失物・相談対応など警察とのやりとりの模擬通訳
8	まとめと振り返り 全体の振り返り、成果発表、自己評価・相互評価、今後の課題の共有
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、実技(30%)、リアクションペーパー提出と内容(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元主任教官、NHK手話ニュースキャスター(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳は言語と文化・生活様式が異なる人々間のコミュニケーションを仲介する行為であり、実際の通訳場面では両者の意見や立場を知り得る唯一の人として通訳者は重要な役割を担う。さまざまな領域・場面における模擬通訳をとおして手話通訳者の役割、通訳実践力を習得する。模擬通訳後のグループ討議・フィードバックをとおして通訳実践力を習得する。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳ができる
授業内容(予定)	
1	ガイダンス
2,3	模擬通訳① 講演会場面
4,5,6	模擬通訳② 講演会場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
7,8	模擬通訳③ 電話通訳場面
9,10,11	模擬通訳④ 電話通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
12,13	模擬通訳⑤ 会議通訳場面
14,15,16	模擬通訳⑥ 会議通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
17,18	模擬通訳⑦ 遠隔通訳場面
19,20,21	模擬通訳⑧ 遠隔通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
22,23	模擬通訳⑨ 医療通訳場面
24,25,26	模擬通訳⑩ 医療通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
27,28,29	模擬通訳⑪ 映像通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
30,31,32	模擬通訳⑫ 模擬通訳まとめ／通訳評価と振り返り(フィードバック)
—	—
—	—
成績評価の方法	実技(模擬通訳)と授業参加度(リアクションペーパー)を総合する
成績評価基準の内容	実技(50%)、授業への参加態度(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士) ※講師1名(宮澤先生)・教官3名(野口、川口、加藤)の参加も1回あり

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	1年生(37期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	通訳は言語と文化・生活様式が異なる人々間のコミュニケーションを仲介する行為であり、実際の通訳場面では両者の意見や立場を知り得る唯一の人として通訳者は重要な役割を担う。さまざまな領域・場面における模擬通訳をととして手話通訳者の役割、通訳実践力を習得する。模擬通訳後のグループ討議・フィードバックをととして通訳実践力を習得する。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳ができるようになるために、通訳場面を観察し、通訳行為に関する評価や課題を発見しができるようになる。
授業内容(予定)	
1	ガイダンス
2,3	模擬通訳⑦ 遠隔通訳場面
4,5	模擬通訳⑧ 遠隔通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
6,7	模擬通訳⑨ 医療通訳場面
8,9	模擬通訳⑩ 医療通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
10,11	模擬通訳⑪ 映像通訳場面／通訳評価と振り返り(フィードバック)
12,13	模擬通訳⑫ 模擬通訳まとめ／通訳評価と振り返り(フィードバック)
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
成績評価の方法	授業参加度(リアクションペーパー)で評価する
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、リアクションペーパー提出と内容(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士) ※講師1名(宮澤先生)・教官3名(野口、川口、加藤)の参加も1回あり

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	中嶋 直子	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	電話リレーサービスを想定した電話通訳の模擬通訳を実施。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳ができる
授業内容(予定)	
1	電話リレーサービス通訳
2	電話リレーサービス通訳
3	電話リレーサービス通訳
4	電話リレーサービス通訳
5	電話リレーサービス通訳
6	電話リレーサービス通訳
7	電話リレーサービス通訳
8	電話リレーサービス通訳
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、実技(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	日本財団電話リレーサービス職員

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳Ⅲ			授業形態	実技
履修学年	2年生(36期)	時間数	240 時間	単位数	16 単位 ●
担当教員	江原 こう平 加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	手話通訳実技

●同科目において他授業あり

※実務経験ある教員等による授業科目

授業概要	手話通訳士試験(実技試験)と手話通訳者全国統一試験(実技試験)の試験対策を行う。 実際の試験を想定し、模擬試験を実施し、通訳評価を行う。
到達目標	さまざまな領域・場面における通訳ができる
授業内容(予定)	
1	手話通訳士試験(実技試験(聞取り通訳・読取り通訳))試験対策
2	手話通訳士試験(実技試験(聞取り通訳・読取り通訳))試験対策
3	手話通訳士試験(実技試験(聞取り通訳・読取り通訳))試験対策
4	手話通訳士試験(実技試験(聞取り通訳・読取り通訳))試験対策
5	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
6	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
7	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
8	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
9	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
10	手話通訳者全国統一試験(実技試験(場面通訳))試験対策
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	実技と授業態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(25%)、実技(50%)、リアクションペーパー(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者) 手話通訳学科専任教官(ろう者)